

平成27年度 特別活動にかかわる現状と課題

部長 長谷川 敬子

1 特別活動の動向

今年度、新潟県小学校教育研究会指定研究事業の特別活動研究発表会が、柏崎市立枇杷島小学校で開催された。主題は、「あたたかい人間関係を共に築こうとする子の育成」であり、副題が「学級会と異年齢集団活動を通して」であった。当日の國學院大学の杉田洋教授（前視学官）のご講演では、21世紀型能力の育成が特別活動と大きく関連することが強調されていた。特別活動が教育全体の中で占める意義の大きさが、今まさに注目されているものと考えられる。

県内各地区の活動報告では、話し合い活動を意識して積み重ねることで、親和的で自治的な学級集団をつくらうとする試みが目を引いた。「話し合いが学級を変えていく」「話し合っただけで未来を変えられる」という言葉が印象的であった。県全体で、社会性育成、よりよい人間関係の構築、望ましい集団づくりに向けての熱い研修が行われていると言える。以下に特徴的な取組を紹介する。

<特徴的な取組・・・研修の手法等別に>

① 講演会、講義から学ぶ

ほとんどの地域が講演会や講義を実施している。南魚沼市と佐渡市では、Q・Uテスト概論の講話を実施し、学級集団のタイプ別アドバイスやルールとリレーション（教師と子ども、子ども同士のふれあいのある関係）と聴く事が大切である事を県立教育センター指導主事から学んでいる。新潟市は年2回の講演会を開催し、今日における特別活動の意義を高崎経済大学の橋本定男講師から、また、「勇気づけの学級づくり」と題して上越教育大学の赤坂真二教授から学んでいる。柏崎市、上越市、魚沼市でもこの両講師を招聘している。三条市では、堀江哲見附第二小学校長を講師に、特別活動における指導の四原則「自主性、集団性、実践性、現実性」等を学び、文部科学省が今こそ特別活動として発行した「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」（教員向けリーフレット）の活用を促している。長岡市三島郡では、元女子バレーボール全日本代表、山下美弥子氏による「望ましい人間関係を形成し、よりよい生活を築こうとする子どもを育てるには」という演題の講演が行われている。

② 市をあげて特別活動に取り組む

魚沼市は、全小・中学校で「温かい学級づくり支援事業」を立ち上げ、主に「学力向上」と「いじめ・不登校の減少」を目指す取組を行っている。年3回のQU調査、本年度からの「温かい学級づくり自校化プラン」に基づく実践、また、堀之内小学校をはじめ市内3校が特別活動の公開授業研究会を開催している。特別活動部員は自校の実践レポート年2回分を集約製本し、「親和的な学級づくり」の取組の重要性を確認し合っている。

③ 授業研究から学ぶ

8地域が公開授業から研究を深めており、昨年度より授業公開数も増えている。柏崎市立枇杷島小学校で公開された4つの学級会の授業では、どの学級も「どんどん発表タイム」「論点整理」「議論タイム」の流れが設定され、若手の教師も自信をもって学級会に取り組める工夫があった。新潟市は話し合いにおける教師の手だてを中心に研究を進め、今年度は特に話し合いの前の活動をどのように組めば、子どもがより思いや願いを表現しながら話し合えるのかを探っている。

④ その他

国立妙高青少年自然の家での教師の実体験を通じたアクティビティ研修を行っている妙高市や、ピアサポート活動の授業公開で学ぶ新発田北蒲、行事計画から人間関係づくりの情報交換をする村上市、春にアンケートをとり、秋に実践報告をし合う糸魚川市など様々な手法で研修を深めている。

2 今後の課題

これから生きる子どもに必要な資質能力が、特別活動を通して育まれるように、子どもの実態に応じた計画的で実効性のある研修を期待する。話し合い活動では、異なる意見との折り合いの付け方や、どちらか選ぶのではなく新しい考えを生み出す経験なども子どもたちにさせていきたい。レポートを持ち寄るだけでなく、どの地域でも授業を通し、生の子どもの姿で語る研究となることを望む。